

研 修 報 告 書

2019年9月24日

講座名 : 法人研修 ～保育所保育指針について～
研修講師 : 武蔵野大学教育学部児童教育学科 准教授 箕輪 潤子先生
日時 : 9月21日(土) 15時～18時
会場 : AP 横浜駅西口 6階H

〈内容〉

◎保育所保育指針改定について

◎実際の子どもがあそぶ場面の写真を使い、子どもたちの育ちをとらえるワーク

〈感想〉

保育所保育指針について詳しく伝えていただいた。25年後の自分を想像することができるか？先が長すぎてなかなか想像できない。現在、保育している子どもたちは25年後25歳～30歳となり社会を支えている年齢となる。・柔らかな発想で理論的に考えること・臨機応変に問題を解決すること・他者と協力したり、他者の気持ちを読み取り、新しいことを生み出すこと・知識や情報を、人との関わりやコミュニケーションの中でいかすことのできるようになることが重要になってくるとのこと。自分の人生を切り開き、世の中を幸せにするような人に育てて欲しいと願いながら保育に携わっていき、指針では「資質・能力」の3つの柱の育ちは、3歳から18歳までの一貫したものとなったとのこと。乳幼児期には何を大切に保育を進めて行けばよいのだろうと考えてしまうが、乳幼児期だからこそ触れられるもの、経験できることがある。そこを大切にするというお話をいただき、日々の保育で子どもたちとの関わりを丁寧に行い、子ども一人一人の理解を深め環境を整えていくことを心がけていきたいと思った。

ワークでは各園の子どもの遊びの写真を見て学びを深めた。乳児の3つの視点から子どもの発達を捉えたり、幼児期に育てて欲しい姿、10の姿のうちどれがどの程度見えているか、また、10の姿以外に見える姿を捉えたりした。3つの視点、10の姿の捉え方を学ぶことができた。また、グループワークをすることで自身では見えなかった姿に気づけ、多くの視点で見る重要性も感じることもできた。

—以上—